

農事組合法人プロファームいなぐ（三重県伊賀市）

組織の概要

- 平成元年に任意組織として設立、平成27年に法人化しており、現在の構成農家数は55戸。
- 42haの水田において、水稻、小麦、大豆を生産。
- 伊賀市依那具地区の農家の9割により構成され、地域内の水田の7割を農地中間管理機構を通じた利用権設定により耕作する、地域の中心的な担い手。
- 農作業は、大型特殊免許を所持するオペレーター6名が中心となり、13名の補助作業員とともに実施。

生産概要

- 【作付面積】水稻：25.5ha、小麦：16.5ha、大豆16.5ha（R2年）
- 小麦の品種は 硬質小麦の「タマイズミ」を栽培しており、R2年産においてコムギ萎縮病への抵抗性を持つ「タマイズミR」への全面切替を実施。
- 小麦は、近年、作付面積を拡大（H30:15.6ha → R3:16.8ha）しており、今後も拡大を図る予定。



<播種作業>

取組のポイント

<農地の団地化や大型機械の導入による小麦の生産性の向上>

- 地元農家を構成員とした「ブロックローテーション検討会（理事会）」を開催。今後、地域において、米・小麦・大豆によるブロックローテーションや作付けほ場の団地化を進めていく上での課題の抽出や、その解決策の検討を実施。
- 現状の収穫面積に対し、既存の収穫機では能力が不足していたことから、大型汎用コンバインを導入。収穫作業の効率化を図り、作付面積の拡大及び適期収穫の実施による収量と品質の向上に繋げる。

<需要に応じた小麦生産の取組>

- 実需者から求められる硬質小麦「タマイズミR」の品質確保に向け、適期播種や排水対策、乗用管理機を活用した適期防除などの基本技術を励行。
- 慣行より条間を狭めた播種による苗立数の確保や開花期追肥を徹底し、地域単収を大きく超える収量と品質を確保。



<除草剤散布>

取組成果

<小麦生産の高位安定化の実現>

- 作付面積の拡大
16.5ha（R2）⇒ 19.4ha（R4）（17.5%増）〔R6目標：19.0ha〕
- 団地化率の向上
42%（R2）⇒ 49%（R4）（7ポイント増）〔R6目標：57%〕
- 単収の向上
248kg/10a（R2）⇒ 350kg/10a（R4）（41%増）
〔伊賀市平均単収（H26～R2年度7中5平均）：218 kg/10a〕

